

# 2024「競技者必携」審判の部 改訂・修正点

## P18 1. 公認審判員規程 第2条(公認審判員の種別)

### ※改訂理由(修正理由)

第2条3を改訂し、「第2種公認審判員」も「全国的大会」で「墨審」を務められるものとした。これは全国的な審判員の減少・不足を受け、「第1種公認審判員」だけで全国大会を運営することが難しいという現状を鑑みての条文改訂・措置である。

## P19～20 1. 公認審判員規程 第7条(認定会参加資格)

### ※改訂理由(修正理由)

こちらも全国的な審判員の減少・不足を受けての改訂・修正であり、「第1種公認審判員」の取得要件を、「第2種公認審判員」資格取得から「2年」→「1年」に短縮・緩和した。

## P21 1. 公認審判員規程 第11条(大会の審判員)

### ※改訂理由(修正理由)

第2条3の改訂を受けての改訂・修正で、「第2種公認審判員」であっても「全国的大会」で「墨審のみ」務めることができるようになった。第11条にも改めてそれを明記するとともに、あくまでも「当該審判員が所属する支部の審判委員長が認めた場合に限り」という「条件付き」での認可であることを併記した。

## 第2条(公認審判員の種別)

公認審判員は、第1種、第2種及び第3種とする。

- 第1種公認審判員は全国的大会の審判をすることができる練達可能な技術と識見を持った者で、公認審判員規程（以下、「当規程」という。）に定める手続きを経て、会長よりその資格を付与された者とする。
- 第2種公認審判員は **全国的大会の墨審**、地区大会の審判、第3種公認審判員は支部内大会の審判をすることができる熟達した技術と識見をもった者で、当規程の定める手続きを経て、会長よりそれぞれの資格を付与された者とする。

## 第7条(認定会参加資格)

第1種公認審判員認定会には第2種公認審判員の資格を取得して~~2年~~を経過し、かつ、所属支部長の推薦を得た者でなければ参加することができない。 **1年**

## 第11条(大会の審判員)

当法人の主催又は主管する全国的大会は、第1種公認審判員がその任に当たる。

ただし、第2種公認審判員については、当該審判員が所属する支部の審判委員長が認めた場合に限り、墨審のみ行うことができる。

- 地区協会又は支部の主催又は主管する大会は、前項に準じ、第2種又は第3種公認審判員がその任に当たる。

### 改訂履歴

昭和39年2月15日	一部改正
昭和47年1月30日	一部改正
昭和56年4月1日	一部改正
昭和60年4月1日	一部改正
平成10年4月19日	一部改正
平成10年5月20日	一部改正
平成12年4月1日	一部改正
平成16年2月1日	一部改正
平成25年11月24日	一部改正
令和元年11月24日	一部改正
令和5年5月23日	一部改正

P41

5. 審判委員会申し合わせ事項

6. 試合と打ち合わせについて

(2)の削除

※改訂理由(修正理由)

タイブレーク走者の違反について、2023年度は導入初年度であり、ペナルティを与えることが目的ではないため、審判員による「指導」、場内アナウンスによる注意喚起を容認したが、2024年度は「アピールプレイ」の対象として、「完全実施」に踏み切るため、(2)の条文を削除し、以下の項番を繰り上げた。

## 6. 試合と打ち合わせについて

- (1) 試合は、スピーディーに行われるよう努力する。
  - ア. プレイヤーの攻守交代は駆け足で行うよう指導する。
  - イ. 試合中、内野手間の送球が長くならないように注意する。  
日没まで、短時間しかないときは、やめさせてもよい。
  - ウ. タイムは1分間以内とする。また、不必要と判断したタイムは認めなくてよい。
  - エ. 選手間の打ち合わせは1イニング1回とするよう指導する。
- ~~(2) タイブレークに際し、攻撃を始めるときの第1打者・二塁走者については、審判員が指導してもよい。~~ ← (2)を削除  
なお、代打者・代走者との交代は認められる。
- (2) 審判員は試合が終了したとき、“集合”のコールをしない。

P47

5. 審判委員会申し合わせ事項

10. 審判主任・副審について

(2)当該審判員→担当審判員に修正

※改訂理由(修正理由)

ルールブックと同様の修正で文章表記、用語使用の統一を行った。

## 10. 審判主任・副審について

- (1) (公財)日本ソフトボール協会主催大会では、各球場に審判主任・副審を置く。
- (2) 審判主任は、試合中の審判員のルール適用の誤り、監督の抗議などを直ちに解決するため、~~当該審判員~~ととも責任を持つ。 ← 担当
- (3) 副審は、アウトカウント、ボールカウント、得点を常に確認して、もし間違いがあったときは、直ちに球審に連絡する義務がある。

P61

6. 審判実務のために

5. 塁審について

(4)塁審の位置と姿勢に修正

※改訂理由(修正理由)

二塁塁審に関する記述がなかったため、一塁塁審・三塁塁審と同様に、二塁塁審に関する記述を加え、それぞれの位置を明確化した。

ア. 走者のいないとき

二塁塁審は三塁と二塁の延長線上に位置し、塁から5.5m離れた位置に立ち、一塁塁審・三塁塁審は同様の距離を保ち、ファウルラインから一足分外側に立つ。

イ. 走者のいるとき

走者の位置にかかわらず、どの塁にいても、すべての塁審は塁から4.5mの位置に立つ。

(ア) 一塁塁審

塁から4.5m離れ、ファウルラインから一足分外側に立つ。

(イ) 二塁塁審

三塁と二塁の延長線上に位置し、塁から4.5m離れた位置に立つ。

(ウ) 三塁に走者がいるときの三塁塁審

塁から4.5m離れ、ファウル地域へ1~2m離れて立つ。



P119

## 9. 審判員の位置及び動き

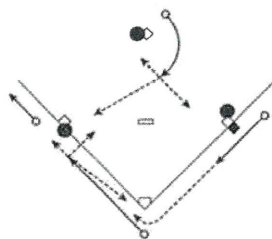
(4人制)

(8) 走者満塁の場合 中段

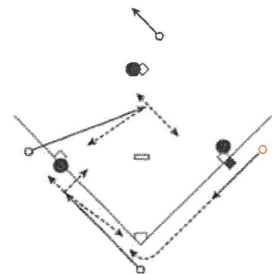
※改訂理由(修正理由)

一塁塁審を図示する○が抜けてしまっていたため、○印を追加する。

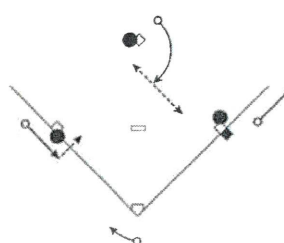
### (8) 走者満塁の場合



- (P) 三塁走者のタッチアップを確認し、飛球が捕球されたときは本塁へ、ヒットの場合は三塁へ。
- (I) 一塁走者のタッチアップと、打者走者の触塁を確認し、タッチプレイの判定に備え、その後、本塁へ。
- (II) 二塁走者のタッチアップを確認し、二塁の判定に備え、状況により三塁の判定に備える。  
打者走者が一塁に達し、一塁塁審が本塁に向かったときは、一塁と二塁のプレイを判定する。
- (III) 飛球を追う。



- (P) 三塁走者のタッチアップを確認し、本塁の判定に備え、状況により三塁の判定に備える。
- (I) 一塁走者のタッチアップと、打者走者の触塁を確認し、タッチプレイの判定に備え、その後、本塁へ。
- (II) 飛球を追う。
- (III) 二塁走者のタッチアップを確認し、二塁の判定に備え、状況により三塁へ。  
打者走者が一塁に達し、一塁塁審が本塁に向かったときは、一塁と二塁のプレイを判定する。



- (P) 本塁の左側に動き、飛球が捕球されるかどうかを見る。  
一塁走者のタッチアップを確認する。  
本塁のプレイを判定する。
- (I) 飛球を追い判定する。
- (II) ダイヤモンドの内側に入り、二塁走者のタッチアップと打者走者の一塁の触塁を確認する。  
一塁と二塁のプレイを判定する。
- (III) ファウル地域を三塁線に沿ってコーチズボックスの本塁側まで動き、三塁走者のタッチアップを確認する。また、二塁走者のタッチアップもあわせて確認する。  
三塁走者の帰塁による三塁でのプレイがあるときは、三塁のファウル地域で三塁のプレイを判定する。  
三塁でプレイがあるときは、フェア地域に入って三塁のプレイを判定する。

P128

余白部分に

「タイブレーク」放送原稿

を掲載

※掲載理由

タイブレーク走者の違反について、「アピールプレイ」の対象とし、「完全実施」に踏み切るため、「タイブレーク」の放送原稿をP128の余白部分に掲載し、どの走者がタイブレーク走者になるかまで、放送することのないよう注意を促す(アピールプレイの対象となる走者について、場内アナウンスで明示することのないように注意を促す)

いがあるので、高くないように、早めに注意する。  
ウ、球審次第で、試合が活気を帯びるし、また生気を失いもする。試合の進行には、特に留意すること。

### 参考

#### 「タイブレーク」説明の放送原稿(例)

観戦中の皆さまにお知らせします。

7回を終了しましたが、両チーム同点ですので、8回からタイブレークに入ります。

タイブレークルールとは、無死(ノーアウト)でランナーを二塁に置いて攻撃を行うものです。

なお、二塁ランナーには、前の回の最後に打撃を完了した者が入ります。

引き続きご声援ください。

※タイブレーク走者となる選手の名前や前の回に打撃を完了した選手の名前、打順等はアナウンスしない(アピールプレイの対象となるため、あくまでも上記参考資料のアナウンスに留める)。

